

京都高校教員交流会 緊急特別企画（オンライン プレ企画）まとめ

【テ ー マ】「休校措置に伴う新入生のモチベーションと学習動機に関わるオンライン情報交換会」

【日 時】2020年5月14日（木）18時00分～20時00分

【実施方法】Zoom ミーティング（オンラインによる開催）

【司 会】塩瀬 隆之 氏（京都大学総合博物館 准教授）

【講 師】杉浦 健 氏（近畿大学 教職教育部 教授）

山本 恵果 氏（米国CTI認定プロフェッショナル・コアアクティブ・コーチ/システム・コーチ）

【参加者】高等学校教員等59名

【スケジュール】

18:00～18:10 開会挨拶・趣旨説明

18:10～18:20 自己紹介（ブレイクアウトセッションによるグループワーク）

18:20～18:40 講師よりショートレクチャー

18:40～18:50 事前に募集した現況、課題認識の共有

18:50～19:00 <休憩>

19:00～19:20 対策案づくり（ブレイクアウトセッションによるグループワーク）

19:20～19:50 グループアイデアに対する講師からフィードバック

19:50～20:00 閉会挨拶

<実施のまとめ>

（塩瀬先生）

今回、プレ企画として開催しているのは、本来の交流会はコロナ禍が過ぎ、先生方が落ち着かれてから新たに集まって開催できればという思いもあり、プレとして実施させていただくことになりました。

私は京都大学総合博物館准教授の塩瀬隆之です。一時期大学教員を辞めて経済産業省に務めておりましたが、再度大学教員に戻りました。高等学校に関わったことで言うと、学習指導要領改正の数理探求の中央教育審議会の委員をしていましたので、理数探求を作るなど科学技術に関する教育に携わってきました。

本日の進行としまして、最初に趣旨説明をさせていただき、先生方同士で自己紹介をしていただく予定です。また、本日はゲスト講師2名にご参加いただいております。まずは講師の紹介をさせていただきます。最初は杉浦先生からお願いします。

（杉浦先生）

近畿大学教職教育部の杉浦です。普段は学生に心理学と教育課程方法論という授業で「授業づくり」を教えています。

（山本コーチ）

カーニバルライフの山本です。本日はコーチングについてお話をさせていただきます。

（塩瀬先生）

本日の進め方はチャタムハウスルールで進めさせていただきます。チャタムハウスルールとは、会議中の議事録に名前を全部消すという方法です。皆さんの意見は大事で共有したいのですが、誰が話したと特定されると、信頼して議論が出来なくなってしまうので、誰が発言したと特定されない形で進めていきたいと思っています。

それでは、いまから自己紹介をしていただきます。Zoom のブレイクアウトセッション機能を活用し、3回に分けて行います。

ー ブレイクアウトセッション：2名グループ（2分）、6名グループ（4分）、3～4名グループ（3分）ー

本日の目的として、全国的にもオンライン授業をどうして行くか議論されている中で、既に準備して始めた学校もあれば、されていない学校もあると思います。また、学校によって様々な事情を抱えておられると思いますので、まずは皆さんと一緒に、いま出来る事を考えて情報共有の場となれば良いと思っています。では、早速杉浦先生にお話しいただきます。

（杉浦先生）

今回は新入生に対する配慮が重要という点から、モチベーションやメンタル面の話をしたいと思います。しかし、今回は直接生徒のモチベーションを上げるという言う話はしません。あくまで原則って何だろう。1番大事なことは何だろう。ということについてお伝えしたいと思っています。

私の専門は心理学です。これまで「やる気」の研究をしてきました。やる気、モチベーション、動機付けと言うのですが、個人的には動機付けは意味付けだと思っています。意味がわかれば、やる気が出ます。逆に意味がわからないと、行動に対してやる気は出ません。だから、今日は意味が一番大切だと言うことを皆さんにお伝えしたいと思います。

本日も京都府内の高校の先生方がおられますが、私も20数年前に2年間、京都府立高校で常勤講師をしていました。授業が全然上手くいかなくて、悩んだ経験から結局授業づくりで1番大事なことは何だろうということを考えながら大学で学生たちに授業を教えています。

本日は、2つ伝えたいことがあります。

1つ目は『何のために』が分かれば、『どうやって』が分かる」ということで、学校は何のためにあるのか、授業や学習は何のためにあるのか。それが分かれば何を行っていけば良いかということが見えてくると思います。

2つ目は、「知識は共有されて初めて知識となる」ということです。学ぶとはその知識が共有される世界へ仲間入りをすることで、この考え方が今の状況を打破するヒントになるのではないかと思います。

私は、授業づくりを教える時にスコープを持って話をしています。学校の勉強とは生徒から見ると、スコープで穴を掘ってもらいたいなものです。「今日は二次方程式の勉強をしますよ、みんなこれ掘って」今日は関係代名詞をするよ」これを掘って、「今日は源氏物語をするよ、みんなこれを掘って」、このように行うものが学校の授業だと思うのです。「なんでそんな事をしなければいけないのだ」と思う生徒もいるかもしれません。学校で「スコープで穴を掘るのは当たり前だと言って穴を掘る」という生徒もいれば、なぜ掘るのか分からないが、「取りあえずスコープで穴を掘ることが受験で出るみたいだから一生懸命スコープで穴を掘る」という生徒もいるかもしれません。また、先生の事が好きで「先生が楽しそうに穴を掘っているから私も掘ってみようかな」と思って穴を掘る生徒もいるかもしれません。

生徒たちから見ると学校の授業はスコップで穴を掘ることと同じです。これをひっくり返すと、学校の先生は生徒にスコップで穴を掘ることを誘導する人たちなのです。

スコップで穴を掘る時に何の意味もないまま、掘ってくださいと言われても、生徒たちはスコップで穴を掘ることはしてくれません。生徒たちはなぜ、こんな事をする必要があるのか。このように考えている場合、生徒たちは自ら進んでスコップで穴を掘ることをしません。もちろん先生が無理矢理、穴を掘るように言っても生徒達は穴を掘らないでしょう。「家で授業のビデオ見ておいてください。あとでテストしますから」と言っても、生徒たちは家で穴を掘ってくれないのではないかと思います。

人は意味が分からないと思うことに対して、積極的に取り組むことができません。生徒たちがスコップで穴を掘るためにはどうしたら良いのか。やはり意味や目的を明確にする必要があるのではないかと私は考えています。

私は、農学部の学生に授業を教えており、農業生産実習という授業があります。その授業を例としてお話しします。

この畑を掘るという作業中でも、いろいろな目的や意味を持たすことができます。

「植物を植えるためにスコップで穴を掘る」「全身の筋肉をよく使うから身体を鍛えるためにスコップで穴を掘る」「穴を掘ってみると楽しいという魅力を伝えるためにスコップで穴を掘る」など、どれも同じ内容のスコップで穴を掘るという授業ですが、目的や目指すところが違えば、違った形の授業になります。どうやって授業をつくったら良いのか。それは授業の目的が決めます。「その教科書は何のために教えるのか」、これが授業を決めるのです。これは授業だけではなく教育でも同じことが言えます。いま、この新型コロナウイルスが感染拡大している中で、どのように授業を進めて行ったら良いのか悩んでいる方もおられると思いますが、私たちが戻らなければいけないことは、学校や授業は何のためにあるのだろう。ここに立ち戻る必要があるのではないかと考えています。私たちは学校に行けなくなりました。子供たちは学校で授業を受けることができなくなりました。物事の意味は無くなって初めて気づくものだと思います。私たちが提供しなければいけないものは何かということを、皆さんに考えていただければと思っています。その答えがこれからの学校と授業を導くと考えています。

2つ目に、私は大学の学習心理学の授業の中で学び続けることには、一体どういう意味があるのかということをお話しています。

藤田英典氏の言葉で「学ぶとは想像の共同体への参加」というのがあります。キーワードは共に学び、知識を共有することです。

「知識」とはその知識は共有されて知識となる「学ぶ」とは仲間入りです。知識を共有している人たちの仲間入りなのです。そして「教える」とは、仲間入りを誘うことです。私たちは教科を教えることで、見えない想像の共同体へ、子供たちを誘っているのです。

なぜ誘うのか、誰かが学ばなければ、誰かが教えなければその文化は滅びるからです。例えば、源氏物語を誰も学ばなくなったら、物語を誰も教えなくなったら、世界に冠たる源氏物語はこの世界から消えていきます。いま残っている文化と言うのは誰かが学び続け、誰かが教え続け、仲間に入っているからこそ、その文化は保たれているわけです。

さて、いま子供たちは学校に行けなくなって一緒に学べなくなりました。その時に私たち教員は何をすべきなのでしょう。生徒たちの仲間入りを誘っていくことが大切になるのではないのでしょうか。今回、お話したことが、これからの指導に役立つのではないかと思います。

(山本コーチ)

私の方からは簡単に自己紹介を兼ねてお話させていただきます。私はパーソナルコーチングというものをしています。コーチングのことをご存じの方も、知らない方もおられるかもしれませんが、コーチングとは問いです。コーチングの定義として、質問によって相手に気づきを促し、相手の価値観に基づく、本質的な意識、行動変容につながる考えや行動を引き出すコミュニケーションとして定義付けています。特別なスキルは必要ではなく、単なるコミュニケーションの一つにしか過ぎません。これは相手の価値観と言うところが先程の杉浦先生の話から「スコープで穴を掘った」の穴の部分になるのかなと思って聞いていました。私たちは、いろんなことをしていますが、それが本当に掘りたい穴なのかということ意識しながら生きてはいません。プロのコーチが関わる事によって、あなたが掘りたい穴は、本当にそれですかということをお問うている、私はそんな仕事をしています。簡単に言いますと、表面意識と潜在意識というものがあります。表面に出ている私たちが自分でわかるものについては良いのですが、そこに隠れている無意識の部分、そこに質問を投げることによって無意識の価値観とかを引き出すということをしています。

コミュニケーションには、コーチングとティーチングがありますが、どちらが良いか悪いかではなくて、場合によって使い分けるものだとは私は考えています。

先程の杉浦先生のお話の中で、教えることは仲間入りを誘う事だ、共同体を作ることだ、と話されておられましたが、まさしくコーチングがそういう時に役立つスキルになると思っています。私はコーチングの講座を、いろいろな場面でさせていただいていますが、参加された方の中には、コーチングは嫌いだという方がおられました。なぜかとお聞きしたところ、コーチングの研修を受けた上司がその学びを後輩に教えようとした。その時は、質問攻めにされて、すごく嫌な気持ちになりましたと教えてくださいました。なぜ、このような事が起こるのか、コーチングに求められるスキルというものがあります。質問の下には3つの大切な土台があります。これを私たちの中ではあり方と言っています。1つ目は相手が何を言っているのか聴いているのかという傾聴、2つ目は相手が本当に言いたいことを聞き取る力ということと相手に好奇心を持って聞くということ、3つ目は相手には力がある、自分で前に進む力があるのだということを知る。この3つが揃って、初めて問いというものが機能します。何か失敗した時に「何故そんなことをしたのか」と言われるよりも、「何があったのかな」「その時どう思っていたの」みたいなことを聞かれると答えの仕方が変わってくると思います。

コーチングは、問いよりもあり方がとても大切になってきます。先程の杉浦先生のお話を聞きながら思っていました、教えるという仲間入りを誘う時には、このような土台を持って、生徒たちに投げかけをしていただければと思います。

(塩瀬先生)

皆さんにお話しいただく際に、示し合わせる上でも基準があった方が良く、杉浦先生と山本さんをお願いしお話をさせていただきました。

参加されている先生方はティーチングのプロなので、生徒に教室に来てもらえれば、先生方はいろいろ対応できると思いますが、休校措置で2ヶ月あまり生徒と会える機会がない中で、先生方のティーチングを生徒に向かって、披露できないのがいまの一番の課題だと思っています。生徒たち自身に頑張ってもらわないといけない時に、引き出す力としてのコーチングと先生方がお持ちのティーチングが重なる事で、この状況を打破できるかもしれないと思い山本さんのコーチングについてのお話を設定させていただきました。

杉浦先生から、学び学習とは仲間入りすることであるという事をお話いただきましたが、社会的学習理論はいま一番大切になる学習理論だと思います。オンライン授業は生徒が授業を聞いていれば良いだろうというような感じが出ています。仲間入りという観点ではオンライン授業ではなかなか手に入らないものがあるのではないのでしょうか。

いま、オンライン授業が進み、良い授業のビデオがあればそれでよいのではないかと、学校はいらないのではないかと唱えられる方もおられます。

現在、慌ててオンライン授業の準備をされているのですが、それは本当に学校で行いたかった学習なのかということを、先生方がもう一度立ち止まって、考える必要があるのではないかと考えています。

いつも対面で行っていた授業を、そのまま Zoom 上ですることが良いことなのか、それで良いのかということは、一度立ち止まって考えた方が良いのではないかと考えています。

先生方の中には、自分の中でモヤモヤされていることもあると思います。対応しろと言われていたこともあると思います。自分の中で対応しないといけないという焦りもあると思います。そのようにいろいろな複雑な気持ちを持たれていると思います。

今回、テーマの中で、新入生としてあげさせていただいたのは、高校1年生にはもう一つ大きな壁があると思ったからです。2年生や3年生はこれまでの学校生活の中で友だちがいて仲間入りをしてから、休校措置の対応となりましたが、新入生については、その友だちがいないというのが大きいと思っています。中には入学式と登校日の2日間だけ行った学校もありますし、一度も新入生を迎え入れていないという学校もあるそうです。

私自身大学で授業する中で、大学1回生向けの授業を Zoom でした際に、何が一番気になっているかについて聞いてみたのですが、大学に一度も足を運んでいない、大学生になった気がしないなどがあがってきました。また、何が一番困るのか聞いてみたところ、授業をどのように履修して良いかわからない、試験はどうなのかなど、いまでは学校に行けないので、以前ならできたはずの友達や先輩に聞いていたようなタイミングがありません。

学校で一番モチベーションが高い時期が1年生の4月と文化祭の前くらいだと思います。一番大事な4月に通えなかったのは、かなりの課題だと思っています。仲間入りのタイミングを逃したと考えた時に、特に新入生に対して、いま何ができるのかということを考えないといけないのではないかと考えています。

さらに、これから考えないといけないこととして、緊急事態宣言が解除された場合、6月から学校が再開した時に、これまでの授業の遅れを取り戻そうとするのか、もう一度4月に戻り授業をするのか。ここは重要だと思っています。

もう一つ皆さんに聞きたい事は、第2派の影響により、7月に再度休校措置となった場合はどうするのか。7月に休校となった場合慌てるのか、予測して準備するのか、そのあたりの対策が必要ではないかと思っています。6月くらいに解除されて迎えるかもしれない新入生含めと2年生3年生と何ができるのかを考えていただきたいと思っています。

グループワークの中で事前課題の一覧から、気になったことや気づいた事をお互いに見つけていただければと思います。

印象に残ったことや、自分では気づけなかった事、他の学校の事で気づいた事などがあれば、チャット欄にお書きください。

■グループワーク①

--- ブレイクアウトセッション：4～5名グループ（8分） ---

<チャット欄コメント>

- 現場 6月くらいに解除されて迎える1年生に向けて何ができるのか？
- YouTubeを配信するのに管理職等のチェックは不要ですか？
- 家庭にICT環境がない生徒
- 生徒同士の仲間づくりのために、休校中にラインでつながらせることを学校として推進できる？
- 生徒の環境による違いは注意が必要かも。
- 「生徒どうしのつながり」の構築
- 学校により様々だということが分かりました。
- 紙媒体の課題と一緒に手紙を入れた。
- 生徒にどんどん動画課題をして「未視聴動画」が溜まってしまうという声
- アダプティブ学習に転換する良い機会
- 一人暮らしの学生はWi-Fiがないので、配った。
- オンライン授業は始まったが、今後は評価の問題が目下の懸案事項です。
- 高校の場合、やはり生徒同士のつながりにどこまで学校が介入できるかが、難しい。
- 家にパソコンもスマホもない。Wi-Fiもないのです。
- 休校中と休校明けからの生活のギャップ。生活指導が必要。
- 生徒のタテとヨコのつながり、学校との信頼関係の構築が必要。
- 高校生はなぜか顔を出して授業を受けるのをたいへん嫌がる。他校でもそうでしょうか？
- 何に使うのか？ Zoomの有効活用
- スマホの小さな画面を見続けるのが辛いという声が多いです。
- 生徒に画面を見続けさせる適正時間は？
- 学校文化の継承不全という意見があり、学校の良さを今のうちにアピールして、楽しみだなという気持ちを引き起こさせるというのも一つの手かなと思いました。
- 家庭の、学習に対するフォローや姿勢も。朝、起きなくて授業に参加しない。親が、起こせない…らしい。
- ある大学では大学生も顔出しを嫌がる声があり、教員のみ顔出しで授業しています。
- 生活リズムがかなり崩れています。
- 我が家の高校生もタイムスケジュールが決まっていますが、すでにその時間割についていけない感じ
です。
- 学生に聞いたら、新入生同士で顔を見られて楽しかったなどと言っておりました。
- パケット制限

(塩瀬先生)

休校明けに、6月から授業を急いで4月のリカバーを行うのか。先生が教えた時間数だけではなくて、学びのコミュニティに参加した一員として生徒を迎えることができ、その生徒たちをサポートしていくことも学力を維持する上では重要なことだと思います。

次のグループワークでは、6月以降に学校が再開された場合、4月5月分の穴をどう埋めていくのかア

アイデアがあれば出していただきたいと思います。

例えば、ホームルームを Zoom で行っている学校では、卒業生に入ってきてもらって、卒業生が高校生活で学んだことを話してもらった高校もあります。その他にも、PTA と Zoom 会議を行って保護者の不安を取り除く取り組みを行っている高校もあります。

7月から再度休校となった場合、先生方はどう対応していくのか。次は、しっかりとした学習者として指導ができるのかということ考えたときに、どこに一番関心があるのか、どういうことを議論するのかについてグループワークで話していただければと思います。

是非とも先生方で作戦を考えていただければと思います。

■グループワーク②

--- ブレイクアウトセッション：4～5名グループ（8分） ---

6月をターゲットとしたときに、4月5月休校を踏まえて、これはした方がよいと思うことをチャットに書いてください。

<チャット欄コメント>

- 学校の役割の再定義
- オンライン
- 個々の生徒からのレスポンスを受け取る手立てづくり
- オンラインでのグループ学習。学びと仲間作りを同時に行いたい。
- 登校日に何をするのかを考えないといけない。
- まずは何あれ生徒との関係づくり
- 学校・クラスの帰属意識を高める！
- コミュニティづくりは絶対必要だと思います。
- そもそもオンライン授業（双方向のリアルタイム）をした方がいい。今は何もできてない（しようとしてない）。
- 再休業に備えたオンライン授業の整備。学校の住人づくり
- つながれる授業の構築をしたい。
- 学校でしかできない授業
- 1年生には、まずはいろいろな関係づくりが一番大切にしたいです。
- オンライン学習の出来ることと出来ないことの整理
- いかにつながり構築するか。そのためにも場所は違えど同じことを同じ時間にする。
- Zoom を活用していきます。
- 「掲示板作戦！」分散登校なので、あえてアナログで黒板にクラスメートにメッセージを書いて、友達とのつながりを持つ。教室に行く意味を持たせる。
- 生徒との関係づくり、オンラインでの生徒同士のコミュニティづくり
- 授業での仲間づくり、行事での仲間づくり、そのために今は改めて教員の中で議論し、教員同士の仲間づくり
- アクティブな学びができるのか？
- デバイスを使えない子たちに使い方を教える。

- 作戦名ではないけど、個人的には「持続可能なオンライン」ですかね。今できる、やるといいこと、休校明けても分割でオンライン同時展開、備えもかなと…。
- 再び休校になり得るということを想定しながら、ということ意識していきたい。
- 生徒が横縦に人間関係をオンラインでも築けるための下地づくり例) 部活の新歓、クラスレク、など
- オンディマンドに適応できている生徒は学校に行く意味が失ってしまうのでは？
- 登校が再開されたら、顔を合わせられる貴重な機会です。交流を重視した、お互いの表情をよく見あえるような時間を作りたいですね。
- 仲間づくりが大前提
- これだけ長い間籠っていると、クラス全体等、多人数に一度に合わせることを無理強いしない。数人でいいから、だれかとつながりができればいいって感じで。
- なぜそれをしたのか？
- 生徒一人ひとりに帰属意識と仲間意識をきちんと持たせて、学習はもちろん学校生活そのものに対するモチベーションを上げるための働きかけがまず必要だと思う。
- 学校の役割を教員で共有 オンライン HR の顔無し+チャットから。
- クラスも 2 分割されてしまう可能性が高いということがわかりました。とにかく会える時にできることをいろいろ試していきます！まずは人間関係の構築、それがあってこそその学習だと思います。
- 今はもっとゆっくりしたらいいのではないですか？
- どういう思いで場を作っているのかを伝えたほうがいいのでは？
- 確かに全員につながらなくても少人数でまずつながるというのもありかもしれませんね。オンラインでも班をつくっておくというのもありかなと思いました。
- Zoom 保護者会もありだと思いました。
- 理科の実験で生徒の協働場面をつくりたい。
- 一人で何とかしなくてはと思わず、先生も困っている所を自己開示するといいのでは？
- とりあえず、今の教員 3 交代制の解除からですかね。
- 一人でできることは一人でできる生徒を育てることも大切。その上で学校では学校でしかできないことを優先すること。こんなことを考えています。
- 塩瀬先生、ありがとうございました！
- とりあえずやってみることが大事。
- プロトタイプをつくる。
- 途中経過でも出す。
- 学校行事を無くすのは簡単だが、どのような形であれば実施可能な学校行事があるかを模索し、全力でわからないまま出す。
- コンピューターは苦手だけど Zoom で授業をしたら、生徒が教えてくれた。
- 生徒の方が教えられるくらい得意な生徒を前に引っ張る。
- チャンス
- 得意な生徒を巻き込んでいく。
- 得意不得意を全部許す。
- 仲間を増やすことにつながる。
- 確かに、iPad の使い方も生徒に授業中に聞いていました。

最後に本日、お話いただきました杉浦先生と山本様より、フィードバックをしていただきます。

(杉浦先生)

実践しながら改善していくことも大切だと思っています。まずは何でも挑戦してみてできない生徒がいれば、その生徒をみんなで救っていくなど、まずはこれが良いというのがあれば、どんどん挑戦していただければと思います。実際にしてみながら問題を解決していく形でも良いと思います。そして、仲間づくりを大切にしていきたいと思っています。

(山本コーチ)

先生方が生徒たちのことを思って、必死に何かをしようという姿勢を強く感じました。いろんな事を行いたいという行動にも出てきていますが、なぜそうしたいと思ったのか、自分の思いがどこにあるのかということを持ち続けていただきたいと思います。例えば、先程のグループワークの中で、いま何がしたいという問いの回答として「ホームルームがしたい」という先生がおられました。どのような思いですかと聞いてみたところ、生徒の顔を見たいと回答がありました。こういう思いをお持ちであることは素敵だと思いました。

この先生の思いを、直接生徒たちに伝えていただけると生徒たちも心を開いてくれるのではないかと思います。また、本日先生方の思いをお聞きして、一人でなんとかしなければいけないと思われている先生が多いと感じました。生徒も先生方も初めてのことで、チャレンジしてみようくらいの気持ちで対応された方が、生徒たちも気負いなく仲間に入れるのではないかと思います。

(塩瀬先生)

オンライン授業が既に始まっている学校もあれば、まだ始まっていない学校もあり、現場にいる先生方は様々な悩みや焦りを感じておられるかと思います。

また、在宅勤務の対応を取られている先生方も多く、先生方同士の情報共有がしにくい状況であると思います。今回このような場を設けさせていただきました。

先程の杉浦先生のお話の中でもありました、「取りあえずやってみる」というような部分が重要だと思っていて、今回のプレ企画のように「未完成のままでも全力でやってみる」ということお伝えできたのではないかと思います。

オンラインに関しては、先生方より得意な生徒もたくさんいると思います。先生方が教えるだけでなく、生徒にも教えてもらいながら授業を進めることで、生徒達と一緒に授業作りを行っていくチャンスにもなるのではないかと思います。

また、生徒たちの中には得意な生徒いれば、不得意な生徒もいると思います。得意な生徒が不得意な生徒に教えるなど、仲間を増やすことにも繋がっていくと思っています。

本日はオンラインを使い、先生方に情報共有をしていただき、仲間を増やすために交流会を開催しました。本日はご参加いただきまして、ありがとうございました。

以上